F-2

歴史的変遷からみた鎌倉における徒歩観光を促す観光まちづくりに関する研究
―（その２）全 23 本の「通り」の特性に着目して―

A Study on Sightseeing City Planning which Promotes *"TOHO-KANKOU"* in Kamakura
―(Part 2) A focus on the characteristic of the 23 Streets in Kamakura―

○青木佑太[1]，横内憲久[2]，岡田智秀[3]，押田佳子[3]，瀬畑尚紘[4]
*Yuta Aoki [1], Norihisa Yokouchi[2], Tomohide Okada[3], Keiko Oshida[3] and Takahiro Sebata[4]

Abstract: This purpose is to grasp the characteristic of all the 23 "Street" from origin, role and space information of them. As a result, the "Street" had various characteristics in connection with the difference in a "rank." In addition, it turned out that the *"Shiseki-shidohyo"* exist near the 23 "Street" and they were preferentially built from near the 23 "Street".

１．研究背景および目的

前項では，「鎌倉市史近世近代紀行地誌編」に掲載された近世･近代紀行文 25 文献を通じて近世における観光客は，近代に比べ「通り」に対する意識が高いことを捉えたが，その理由として近世当時には「通り」の持つ各々の特性が空間的ににじみ出し，「通り」そのものが観光客の注目の的になっていたと推察される．

そこで本稿では，「通り」における由来や役割および空間情報(所在･範囲)を明らかにし，各々の「通り」における空間特性を把握することを目的とする．

２．研究方法

（１）調査対象範囲―調査対象範囲は，鎌倉内外を結ぶ「鎌倉七口」の内側である鎌倉中心部とする(Figure1)．

（２）対象文献および分析項目―「通り」に関する詳細な情報が把握可能な「鎌倉市史総説編」[1]，「鎌倉事典」[2]，「鎌倉の地名由来辞典」[3]，「鎌倉の古道」[4]の計４文献より通り名を抽出し，その「通り」に関する格，説明，由来および役割を捉える(Table1)．ただし，通り名のみを紹介するものにとどめたものは除外する．

加えて，鎌倉町市青年団※1が 1917(大正６)年より約 30 年にわたり建立した史蹟指導標は，鎌倉全域の名所旧跡に余す所なく建立したことより，「通り」との空間特性もにじみ出ると考えられ，分析資料[5][6]より史蹟指導標の位置および建立年を把握する(Figure1)．

３．結果および考察

上記の「通り」に関する４文献[1]~[4]の読み取りより，「通り」は 23 本抽出できた．さらに鎌倉町市青年団が鎌倉の名所旧跡に網羅的に建立した 77 件の史蹟指導標のうち，対象範囲内に存在するものは 65 件であることを把握した．以降では，抽出した 23 本の「通り」の位置と史蹟指導標 65 件の位置および建立年を示した Figure１，「通り」の格，説明，由来および役割を示した Table２をもとに考察を行う．

（１）格の違いによる「通り」の空間特性―Table２より，抽出した「通り」の格は「大路」「小路」「辻子」および鎌倉と他地域を結ぶ「街道」に４分類できた．「大路」は，鶴岡八幡宮を由来とする「１.若宮大路」や永福寺を由来とする「17.二階堂大路」など，神社仏閣の存在に由来するものが見受けられた．さらに，鎌倉の中心である鶴岡八幡宮から武蔵の国へと続く「６.武蔵大路」や鎌倉の東西を結ぶ「４.大町大路」「５.車大路」，物資の運搬として経済的な役割の強い「11.小町大路」など都市の交通機能を求めたものを多数把握した．「小路」は，大路同士を結ぶ近道として大路の補完的な役割である「18.綾小路」や，若宮大路の一部である「２.琵琶小路」や武蔵大路の一部である「７.巌小路」など，大路の中の“部分呼称”として名が付いたものが見受けられた．大路の一部に小路として名前を与えられ，独立した呼称を持つに至るには，その「通り」が大路とは異なる極めて高い魅力を有するためだといえよう．「辻子」「街道」については，現状の調査では特性に関する詳細な情報は得られなかった．

（２）史蹟指導標と「通り」との関係性―Figure１より，対象範囲内に存在する 65 件の史蹟指導標のうち，抽出した 23 本の「通り」に近接しているものは※2，34 件と過半数以上であることを把握した．また，建立年別にみると，1931 年建立以前までは，比較的優先して「通り」に近接する史蹟指導標が多く建立されていることを把握した．これらのことより，史蹟指導標は，先で捉えた各々の「通り」における異なる空間特性を表出させるポテンシャルを秘めていると推測できるが，「通り」との空間特性の把握までは至らなかった．

４．おわりに

現在，鎌倉市観光協会で発行している観光マップ「鎌倉ウォッチング」[8]には，今回抽出した 23 本の「通り」のうち，通り名の記載が確認できたのは「若宮大路」と

１：日大理工・学部・交通　２：日大理工・教員・建築　３：日大理工・教員・交通　４：日大理工・院・不動産

「金沢街道」の２本のみであった．観光名所のみに目を向け，その名所との繋ぎの役割をもつ格高い「通り」が現状のように，名もなき通路に成り果ててしまっているのは見直すべきではなかろうか．

５．補注･参考文献

※1. 鎌倉町市青年団は大正初期より，鎌倉において名所旧跡の発掘と研究，郷土の宣伝と発展に尽力した[9]．
※2. 「通り」に接するもの，および該当の「通り」を利用しないと辿りつけないものを対象とした．

［1］鎌倉市史編纂委員会：「鎌倉市史総説編」，吉川弘文館，pp. 256～300, 1959 ［2］石井永二：「鎌倉事典」，東京堂出版，p p. 19～326, 1992 ［3］三浦勝男：「鎌倉の地名由来辞典」，東京堂出版，pp. 7 ～200, 2005 ［4］阿部正道：「鎌倉の古道」，鎌倉国宝館，鎌倉市教育委員会，pp. 1～19, 1958 ［5］鎌倉市：「区制施鎌倉年表」，鎌倉市，pp. 256～314, 1989 ［6］鎌倉友青会：「鎌倉」，鎌倉友青会，pp. 93～132, 1941 ［7］大岡昭彦：「鎌倉路地小路めぐれ道」，有斐閣社，pp. 58 ～155, 2010 ［8］鎌倉市観光協会：「鎌倉ウォッチング」，2010 ［9］福光四郎：「鎌倉」，鎌倉右文社，pp. 34～37, 1926

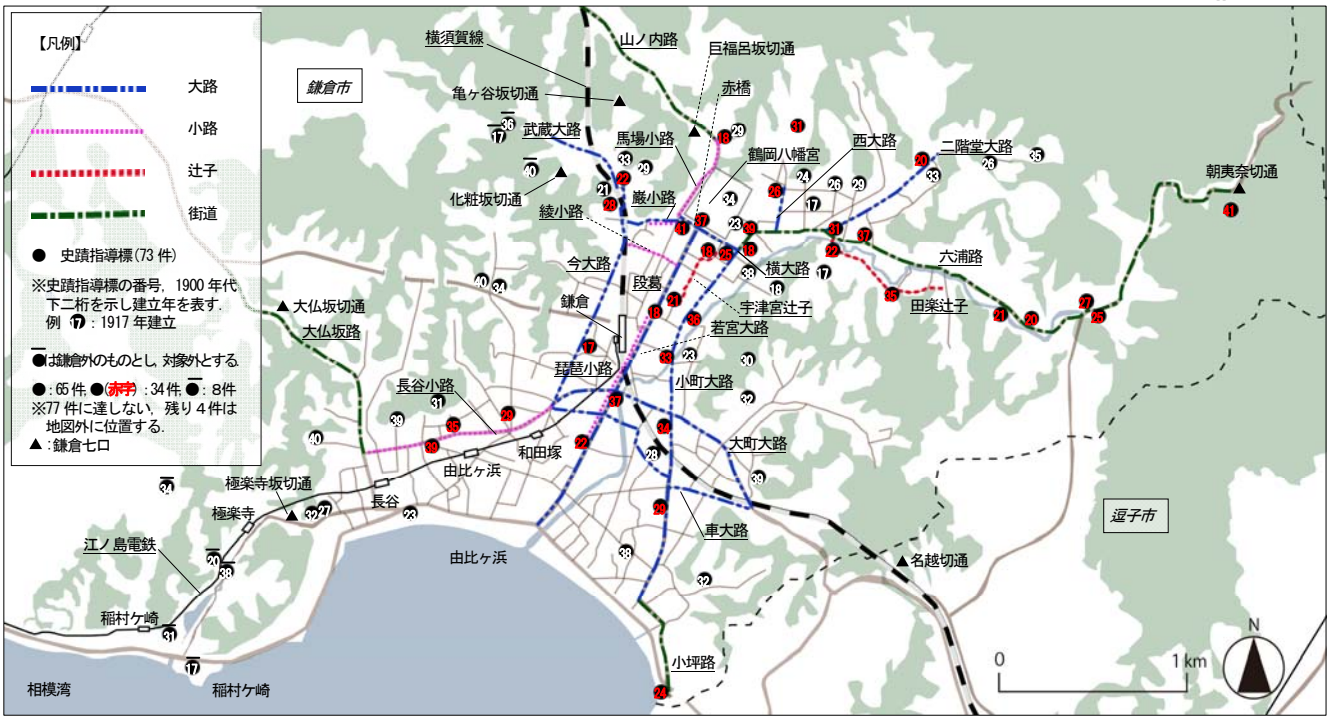

Figure1. The map of all the 23 "Street" and *"Shiseki-shidohyo"* [5][6][7] (This is the original figure by authors.)

Table2. Explanation, Origin, and Role of all the 23 "Street" [1][2][3][4] (This is the original table by authors.)

No.	通り名	格	説明	由来	役割
1	若宮大路	大路	「若宮大路」と記すのは東鑑のであり、他の史料においては若宮小路と記される。	若宮とは新たに勧請した神社をいい、鶴岡八幡宮を内裏に見立て、京都の朱雀大路になぞらえて造成されたことによる。	参詣道。北条政子の安産祈願のため。
2	琵琶小路	小路	古え此所に弁天の小社在て道まかれるゆへ、此弁天社を右大将家八幡宮の池辺へ移し給ひ、路を直しく給ふ。	昔は道の形が琵琶に似ていたので名付けられた。	
3	段葛	（大路）	若宮大路の中央に二条の土堤を築き、その基部に葛石を敷いた参詣道。	段は壇、葛はその上方にあって縁石を兼ねる石のことで、段葛は土壇の上に葛石を置いて作った道ということになる。	参詣道。北条政子の安産祈願のため。
4	大町大路	大路	古東海道筋の一つで、鎌倉の東西を結ぶ主要な交通路。	中世鎌倉の商工業活動の中心地「大町」に由来し、町大路とも称された。	鎌倉の東西を結ぶ主要な交通路。
5	車大路	大路	若宮大路と交差する形で東進している。	都市の環状線的なものとする考えもあるが、その詳細は未詳。	名前の由来のような都市の環状道路のような役割を持っていたのではないか。
6	武蔵大路	大路	鎌倉時代にみえる鎌倉府内(鎌倉市)の大路。	鎌倉を中心に武蔵国へ通じる重要な交通路、というのが路名の由来。	武蔵国へ通じる重要な交通路。
7	巌小路	小路	八幡宮、若宮大路へと通じていた武蔵大路の道筋にあたる。	巌堂に由来する。	武蔵大路より八幡宮、幕府の中心地に向かう道。
8	大仏坂路	街道		大町大路に続く路であるが、頼朝入居当時鎌倉の内でなかったので、大町大路と呼ばれなかったのではないか。	藤沢と鎌倉を結ぶ交通路。
9	山ノ内路	街道	巨福呂坂が開通したのが仁治元年(1240)なので、それまではこの山ノ内路は浄智寺のところから亀ヶ谷坂を越えて武蔵大路に合したものと思われる。		
10	六浦路(道) (金沢街道)	街道	鎌倉・南北朝期に鎌倉の外港として繁栄したとされる六浦津(現横浜市金沢区)と鎌倉とを結ぶ道。		建長2年(1250)当時、六浦津とその周辺は北条氏の一族金沢氏の所領であり、この道は鎌倉の都市化を推進するための軍事・経済等の要路であったと推測される。
11	小町大路	大路	大倉幕府や若宮・宇津宮辻子幕府などの政治的中心部と和賀江・飯島・材木座などの港湾・商業地区とを結ぶ経済道と称される幹線道路。	鎌倉の中央部にあった町屋が構えられて賑わった「小町」に由来する。	物資輸送の道。
12	小坪路	街道	小坪を経て、葉山へ通じる道。小坪坂・小坪切通とも呼ぶ。		地蔵尊の配置からこの道筋が多くの旅人に利用されたことを物語っている。
13	横大路	大路	鎌倉初期は大倉幕府の「南門前道」「南西の道」で、六浦道の一部の名称。南北朝期の「大蔵南小路」などは横大路に相当するとみられる。		
16	西大路	大路	筋違橋から少し東へ六浦路を行くと北へ西御門の谷へ入る路がある。これが西大路である。	大倉幕府の西の大路で、西御門のあった路と考えられる。	
17	二階堂大路	大路	六浦道の関取場跡辺から二階堂川沿いに鎌倉宮(大塔宮)参道と並行して四ツ石に出、永福寺・瑞泉寺へ通じる道筋。	永福寺への道を重視して「大路」と称したのであろう。	
18	綾小路	小路	扇ガ谷寿福寺と巽荒神社の中程から今大路とわかれ、「関口」を経て若宮大路に通じていた。	綾→所・谷などの交差した所の意味。	今大路から段葛中央の割断部に通じる重要な近道。
19	今大路	大路	「鎌倉志」→勝ノ橋から南行し、東側の巽荒神社前迄の道路。「大日本地名辞書」→扇ヶ谷の谷口より南に馳せ、裁許橋に至る旧街の名。	西の大道として新たに整備された路の意であろう。	
20	宇津(都)宮辻子	辻子	小町二丁目の雪ノ下カトリック教会と鎌倉彫会館との間を通る横道に比定される。	宇津宮稲荷に由来すると思われる。	
21	田楽辻子	辻子	筋替橋を起点として北条屋敷(宝戒寺辺)の北側から滑川を渡り、川の向い側に沿って大御堂ヶ谷の入口を通り、釈迦堂ヶ谷入口を東に進み、宅間ヶ谷(報国寺辺)から六浦路(金沢道)に合流する小路と考えられる。	路沿いの釈迦堂前に専業の職芸者である田楽法師が住んでいたことに由来する。	
22	長谷小路	小路	中古からの名称ではなく、長谷寺が成立したとみられる鎌倉時代後期以降、同寺への参詣が盛になってから後に付された称であろうことが想像される。		
23	馬場小路	小路	雪ノ下二丁目、鶴岡八幡宮境内の西脇沿いの道。		

【凡例】 ▒は特定できなかったものを意味する。
※通り名のみを紹介するものにとどめたものは表中には記載していない。